

会 議 議 事 録

会議の 名 称	動物実験委員会	日 時	平成30年 3月14日(水)16:30~16:45
		場 所	大会議室
出席者	委員長：大江田臨床研究部長 出席者：森村統括診療部長（欠）、富田薬理研究室長、山本生理研究室長、 田原免疫研究室長、須藤分子遺伝研究室長、梅村医療画像研究室長、 安東再生医学研究室長（欠）、関外部委員 <div style="text-align: right;">(書記)庶務係長</div>		
議 題 及 び 討 議 事 項			
<p>1. 動物実験委員会構成員について</p> <p>大江田委員長：平成30年度の動物実験委員会構成員は、委員長は大江田臨床研究部長、副委員長は富田薬理研究室長、委員については、山本生理研究室長、田原免疫研究室長、須藤分子遺伝研究室長、梅村医療画像研究室長、安東再生医学研究室長とする。また、外部委員は引き続き、関あずさ国際部長（ハムリー株式会社所属）にお願いする。</p> <p>※了承。</p> <p>2. 動物実験計画書の審議について</p> <p>【生体内で部分凝集したαシヌクレインがもたらす神経細胞機能異常の解析】 (申請者：神経内科医長 山本 兼司)</p> <p>申請者説明：パーキンソン病 (PD) やレビー小体型認知症 (DLB) の病因と推察されている部分凝集したαシヌクレインが神経細胞の興奮性やシナプス伝達に生ずる影響を細胞電気生理学的に解析し、PDやDLBの病初期に生ずる神経機能異常を明らかにする。実験方法は、ラットおよびマウスをインフルラン麻酔下（空気をキャリアガスとして濃度2.5%で吸入）にて断頭し大脳を取り出したうえで大脳皮質急性スライス標本を作成する。このスライスにO₂/co₂混合ガスをバブルしたリンゲル液を還流させ、大脳皮質錐体細胞にパッチクランプを施行し、パッチピペットからαシヌクレインを投与したうえで神経活動やチャンネル電位を記録する。これらのたんぱくが神経内のどのチャンネルや受容体に機能異常をおこすかを調べるため、これらのチャンネルや受容体を修飾するさまざまな薬剤を投与が必要で上記の匹数を必要とする。また、チャンネルに対する修飾機構はマウスとラットで異なるため(*1)、同じ実験をラットとマウス両種で施行する必要がある。</p> <p>当課題は継続課題であり、引き続き承認をお願いしたい。</p>			

関外部委員：使用動物数ですが、ラット月13匹、マウス月7匹となっているが、使用実績数を見ていると、もう少し少ない気がする。計画書に記載している匹数は最大である旨、備考欄等に記載をお願いします。

大江田委員長：申請者には、実験動物の使用状況に関して、上記のとおり修正をお願いします。当課題については、修正後の申請書の提出を以て承認とする。

3. その他について

関外部委員よりレクチャーを受ける（別添資料）。

以上